学校だより　第７号

加曽利中

千葉市立加曽利中学校
令和６年１月 31 日

「1 月は行く、2 月は逃げる、3 月は去る」

学校が三学期制だったころ、あっという間に過ぎてしまう第３学期のことを「いち月はいく、に月はにげる、さん月はさる、と言うんだよ」と教わったものです。

本当にそのとおりで、元日の能登半島地震、２日の羽田空港　航空機事故と大変つらいスタートとなってしまった令和６年(2024 年)も、あっという間に１月が終わってしまいます。

冬休み明けの全校放送集会で、能登半島地震と羽田の航空機事故について生徒に話しました。

能登半島地震発生３日後に高齢女性が救出された際、女性をかばうように亡くなっていた 50 代の息子さんのニュースでは、覆いかぶさっていた息子さんの体温のおかげで、高齢女性は低体温症にならずに助かったのだろうということでした。

もし、自分が息子さんの立場だったら同じようにしたと思いますが、母親の立場だったらどうでしょう。とっさに自分をかばって覆いかぶさってくれた息子をうれしく、愛おしく思ったでしょうが、自分をかばってくれた息子が自分の上でだんだん冷たくなっていき、息を引き取っていくときは、なんとか自分が代わってやりたいと、胸が張り裂けるようにつらい思いだったのではないでしょうか。

大切な人や住み慣れた家、地域を突然失ってしまった方々がたくさんいるというつらい現実。

では、今、私たちにできること、私たちがすべきことは何でしょう。それは、できる範囲での募金と、目の前の日々をしっかり生きることだと思います。

大人はしっかりと働いて経済を回し、被災地支援に回る予算が増えるようにする。生徒は日々の学校生活で様々な力を身につけ、社会に出たときにしっかりと働き税金を納める、政治家や行政担当者として災害に強い街づくりや円滑な支援のシステムを構築する、芸能人やスポーツ選手、高額納税者になって多額の募金や被災地支援をするといったことができるようになるからです。

羽田空港での飛行機事故では、日本航空機の乗客乗員全員が奇跡的に避難できたわけですが、その背景には、安全な出口を把握し乗客を的確に導いた乗務員のリーダーシップと、乗務員の指示に従って冷静に行動した乗客のフォロワーシップがあったと思います。

緊迫する事故機内の映像では「早く開けてください!」「出してください!」と声をあげる人がいる中、「煙は上に上がるから、身を低くしましょう!」「大丈夫、大丈夫!乗務員の指示に従っていれば大丈夫!」と声をかけ、パニックになりそうな人々を落ち着かせている乗客の声がありました。

また、いよいよ非常口への移動となったとき、非常口への円滑な移動を妨げ脱出シューターを破損させたり詰まらせたりするおそれがある手荷物を持ち出そうとした乗客に「荷物を出すな!」ときっぱりと制する声を出した乗客、「荷物は持たないで!」と冷静に厳しく指示を出す乗務員の声がありました。

優秀なリーダーがいて、リーダーを支えるしっかりとしたフォロワーがいる集団、ダメなものはダメと言える、当たり前のことを当たり前にできる集団であったことが、奇跡の全員脱出につながったのではないでしょうか。

能登半島地震、羽田空港　飛行機事故から、平凡な毎日こそ幸せな毎日であり、目の前の一日一日を大切にすることがいかに大事かということを痛感させられました。また、あたりまえのことがあたりまえにでき、あたりまえのことをあたりまえに頑張れる者が正当に評価される学校であり続けることの大切さも、改めて確認させられました。

〈一学年　百人一首大会　1/19〉

１学年は、１月 19 日(金)午後に百人一首大会を行いました。

四つの会場をオンラインでつなぎ、雅楽(ガガク)の雅(みやび)なＢＧＭが流れる中、読みあげられる札を集中して探す姿が見られました。

中には、決まり字をマスターしていて、上の句が読み始まった瞬間に札をとる強者もいました。

和歌ののどかな響きと雅楽のＢＧＭに包まれながら、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

〈正月マラソン大会　1/13〉

加曽利中学校区青少年育成委員会主催の正月マラソン大会が加曽利中グラウンドと加曽利中の敷地外をぐるっと回るコースで行われました。

当日までの準備をはじめ、受付、コースの交通整理、ランナーの先導、救急用車両での伴走、参加賞配布、開閉会式の運営と、育成委員会の方々がてきぱきと動いてくださいました。

一般道路も使って、小中学生から大人までが参加するマラソン大会を円滑に運営できる育成委員会の組織力に改めて感心しました。

また、寒風の中、元気に走る子供たちの姿からエネルギーをもらうとともに、この子たちなら、万が一の災害の場合でも地域のために活躍できるなと感じました。